

やすらぎ

人と人をつなぐ月刊総合誌



2004年7月号 / 250円

編集部より	2
自由	3
スーフィズム実践の鍵	4
ドウア（祈り）のある毎日へ	6
「夜泣き」	7
「忍耐とは、災難の最初の衝撃をうけた時にあるものである」第2回	10
こわれた壺 「換言」	11
心のうた 「なんととなろう」	15
預言者ムハンマドを語る 「預言者たちの風格」第5回	16
聖クルアーンと科学 「守られている惑星：地球」	17
リサーレイヌール 「人間と世界の本質（第2回）」	18
画面から考える：「ノッキン・オン・ヘブンスドア」	21
「大きな船とひどい洪水」	23
「頑固者のために」	24
「レシビコーナー フスキニーニの揚げ物」	25
詳しく学んでみましょう 『礼拝（サラート） 第5回』	26
「フェトウフッラー・ギュレンとローマ教皇の会見」を読んで 第2回	27
サハーバ（物語）より 「禁断の食物に対するみ使いの裁決」	28



子供たちの夏休みもあと1ヶ月足らずでやってきますね。夏休みで思い出すのは家族で出かけた毎年恒例の海水浴です。車やフェリーを乗り継ぎ一泊二日で行った太平洋沿いの海水浴場では、浮き輪につかまって波間に揺られたり、新鮮な海の幸に舌鼓を打ったり、夜は花火に興じたりと楽しい思い出が残っています。そのような楽しい記憶も手伝い、山に囲まれて育った私にとって海は異次元空間のようであり目にする度にワクワクさせられます。彼方で緩やかな弧を描く地平線から地球の巨大さや果ては宇宙に浮かぶ地球の姿を想像したり、大海原が遙か先で別の見ず知らずの陸地とつながっている不思議を空想したり、または静かな波の音に心を慰められたり・・・大人になりムスリムになって海水浴に行くことはなくなりましたが、夏が近づくと海へと駆り立てられる気持ちは変わらず刺激されます。雄大さ、荒々しさ、細やかさ、優しさなど七変化の姿を見せてくれる海に会いに今年も出かけられたらと思います。

さて、6月号のエッセー「映画から考える」の中でキリスト（イサー）の最後の12時間を描いた映画「パッション」が取り上げられましたが、イスラームにおけるイサーの最期についての言及を問う声が読者の方々からありましたので、少し紹介したいと思います。イスラームでは聖クルアーンで以下のように述べられているように、イサーが磔刑に処されたり殺されたりしたことを否定しています。

「わたしたちはアッラーの使徒、マルヤムの子マスィーフ（メシヤ）、イサーを殺したぞ。」と言った。だがかれらがかれ（イサー）を殺したのでもなく、またかれを十字架にかけたのでもない。只かれらにそう見えたまでである。（中略）かれらは、実際かれを殺さなかった。いや、アッラーはかれを御側に召されたのである。アッラーは威力ならびなく英明であられる。（婦人章〔アン・ニサーア〕：157、158）

お詫びと訂正：6月号「心のうた」の中で、「ゲンチアブダル」の注釈として「愚かな若者達」という注釈をつけていましたが、ゲンチアブダルとは作詞者の名前だとの訳者の指摘がありました。この詩の中で作詞者は自分自身に向かって内省を呼びかけているとのこと。編集部の手違いにより読者の皆さまに誤った解釈をさせてしまうことになったことをお詫びし訂正いたします。

* 表紙絵担当者より：一滴の水から地球の4分の3を覆う海へ・・・想像するとアッラーの偉大さを感じます。



「自由」とは、魂が崇高な感情や思想以外の物事に対しては自らに制限を設けて行動することです。そして善や美德以外の信条には従わないことを意味します。

捕らわれの身となったり、鎖につながれた状態にあっても意識レベルでは自由を謳歌し、それゆえ拘束されているとは感じない人も多くいます。しかし一方で、城や庭付きの広大な空間に居住しながらも真の意味での自由を味わえない人も多くいるのです。

真の自由とは文明化された自由です。それは宗教や道徳というダイヤのチェーンと、健全な思考という黄金の首飾りを身にまとっています。

真の自由とは、私たちが無関心や無頓着に陥らない限り、人間の精神が物心両面において進歩を遂げようとするのを妨げるあらゆる手枷足枷から自由であることです。

他人を傷つけたりすることもなく、全身全霊で真理に向き合っているならば、人は自由をもってして何でも希望することを遂行することができます。

宗教的な思考や意識を認めず、道徳に価値を置かず、美德を育てる役割を果たさない自由は、伝染病のようなものです。この自由の伝染に苛まされるようになった社会からはいつか快適な生活が失われると共に、豊かな環境も徐々に破壊されていく可能性もあるのではないのでしょうか。

自由を完全なる勝手気ままさと履き違える人は、人間の自由と動物の自由を混同しています。動物には問われるべき道徳性がないゆえに倫理的な制約も一切課されません。中にはこのような自由を欲する人もいるでしょう。そしてその自由を卑劣にも肉体的欲望に耽溺するために使いたいと思うでしょう。しかしこのような自由は獣的な欲望よりひどいものです。真の自由、すなわち倫理的な責任を伴う自由は、良心の意欲を起こさせ、鼓舞し、精神の発展を妨げる要素を取り除くようなものであり、人間であることを証明するものなのです。





スーフィズムとは何か？

スーフィズムはこれまでいろいろな形で定義されてきました。個人のエゴや意志、自己中心というものをなくし、アッラーの真髄という光で個人を霊的な意味で生き返らせてくださることだと見る人がいます。このような変化は個人の意思をアッラーの意思と一致するようにアッラーが導いてくださるといことです。また、個人の悪い点を浄化し美徳を得るための絶え間ない努力だと見る人もいます。

高名なスーフィーのジュナイド・アル＝バグダーディーはスーフィズムを「アッラーの中に自己を消滅させること」と「アッラーとともに永久に生きること」を思い出す方法と定義しています。シブリーは、常にアッラーとともにあることもしくはアッラーの御前にいることであり、それによって現世や来世での目標が楽しくすら感じられるとまとめています。アブー＝ムハンマド・ジャリールは、現世的な私利私欲や不道德の誘惑に抵抗することであり、賞賛に値するような美徳を得ることであると説明しています。

また、スーフィズムは物事や出来事の「外側」や表面上の見た目の裏側を見ることであり、世界で起こるすべてのことをアッラーとの関係の中で解釈することだと説明する人々もいます。これは人がアッラーの行為の1つ1つをアッラーを「見る」窓だと捉え、物理的には説明できないような深く霊的に「見る」ことや常にアッラーによって監視されているのだと深く認識することによって、アッラーを「見る」ための絶え間ない努力として人生を生きるということです。

これらすべての定義は以下のようにまとめることができます。《スーフィズムとは、アッラーがお喜びになれる美徳と善行を実行するために不道德や弱さから自らを解き放ち、アッラーの知識と愛が求めるように生き、結果として霊的な喜びの中に生きる人々が歩む道である。》

スーフィズムは、内なる意味を理解するためにシャリーア（イスラーム法）の最も些細な規則にすら注意することを基本としています。その道を進む人々（サーリク）は決してシャリーアを外見的に遵守することとその内なる意味とを分けることをしません。そのため、イスラームの外部的側面と内部的側面のどちらの要求することもすべてに従います。そういった遵守を通して、人は謙虚さと従順さにおいて最高の状態を目指して進むことができます。

アッラーの知識へと導く困難な道であるスーフィズムにおいては、怠慢や浅薄といったようなものが存在する余地はありません。まるでミツバチが巣から花へ、花から巣へと飛び続けるように、この道を進む人には知識を得るために絶え間ない努力が求められるのです。他のものに対する執着や愛着も心から取り

除かれなくてははいけません。すべての現世的な嗜好や欲望、食欲などに抵抗し、アッラーが甦らせ心を照らしてくださった知識を反映させ、預言者ムハンマドのお手本に厳しく従うことと同時に、常にアッラーの恩恵と靈感を受けられる状態で生きるのです。アッラーへの愛着と信仰が最高のものであり最高の誉れであるとの確信から、この道を行く人はアッラーの要求すなわち真実のために自分自身の欲望を放棄するのです。

これまでスーフイズムの定義をみてきましたが、次に目的・利益・原則についてみていきましょう。

すべての宗教的義務に関する厳格な遵守と簡素な生活様式、現世的な欲望の放棄がスーフイズムでは求められています。靈的な自己規律を通して、人の心は浄化され、感覚や能力はアッラーの道に使われるようになります。つまりそれは、この道を進む人が靈的なレベルにおいて生き始めるということなのです。

またスーフイズムでは、アッラーを崇拜し続けることによって、自分自身はアッラーに帰依する存在であるという意識を深めることができますようになります。この束の間の物質世界を、それがもたらす欲望や感情と同様に放棄することで、アッラーの美名に向けられたもう1つの世界という現実を意識することができます。個人の存在の道徳的側面を伸ばし、以前は表面的に受け入れていた信条について強く心からまた個人的経験に基づいて確信を得ることができるようになります。

スーフイズムの原則は以下の通りです。

- *アッラーの唯一性に対する信仰を確かなものにし、その信仰に沿ったように生きること
- *アッラーの御言葉（聖クルアーン）に注意を払い、はっきりと認識し、そして全世界がそうであるように（創造物と生命の法）アッラーの力と意思に従うこと
- *全世界は人類の揺りかごであるという確信に基づき、アッラーの愛に満ちあふれ、全ての他の存在と友好的な関係を保つこと
- *他の人が良好な状態であることや幸せであることを好み、優先させること
- *自分自身の欲求ではなくアッラーの意思の通りに行動し、アッラーの中に自己を消滅させアッラーとともに生きるという姿勢で生活すること
- *愛や、靈的願望、歓喜、恍惚に対して開かれた状態にいること
- *表情と、アッラーの真理や外見的出来事の意味など精神面から、心や頭の中がわかること
- *靈的に意味のある場所を訪れ、罪を避けアッラーの道に努力する人々と交流すること
- *許された喜びで満足し、一歩たりとも許されていないものへとは近付かないこと
- *現世での野心やこの世界が永遠であるかと思わせるような幻想に対して常に闘い続けること
- *信仰と宗教的行為に対する確信、純粋で誠意ある意思、アッラーのお喜びだけを求める心によってのみ救済は可能となることを決して忘れないこと

もう2つの要素を付け加えることもできるでしょう。《宗教的、霊知学的知識と理解を深めることと、霊的に完成された人の先導に従うこと。》これらは両方ともナクシュバンディヤ・スーフイーの中では重要な意味を持つものです。

スーフイズムを以下のような基本概念に沿って論じることは有益かもしれません。基本概念は、しばしば道徳や礼儀、禁欲主義についての著作の主題となり、また心の中で「イスラームの真実」の位置を占めるものとして捉えられています。アッラーへと導く霊的な道を知り、それに従うための光であると考えられることもあります。

基本概念の第一番目で最も重要なものは、覚醒していること(ヤカザ)です。それは預言者の言行録(ハディース)で以下のように言及されています。《私の目は眠るが私の心は眠らない。》また、第4代カリフのアリーの言葉も残されています。《人間は眠っている。死ぬ時に起きるのである。》この道の他の多くの段階については、これからこの本の中で詳しく論じることにしましょう。

ドゥア(祈り)のある毎日へ



あやまちを許すお方よ

災難を取り除くお方よ

希望の最後の拠り所となるお方よ

限り無い恩恵を与えるお方よ

無限の贈り+物を与えるお方よ

被造物に糧を与えるお方よ

各々の人生を決定なさるお方よ

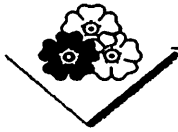
すべての訴えを聞かれるお方よ

救いをもとめるものに援軍を送るお方よ

心身共に(しもべを)束縛から解き放つお方よ

7. あなたは完全無欠なお方、あなたに栄光あれ、あなたの他に真の神は存在しません。私達を地獄からお助け下さい。²

² 偉大なる鎖帷子(ジャウシャヌルカビール)には、祈願(きがん)、唱念、救いを望むことが記されています。それは、真の主アッラーの多くの御名を知らしめ、それらの御名と共にアッラーへ祈願し、近づく方法を示す大変貴重な意味深い書です。鎖帷子は戦いの時、身を攻撃から守るために着ます。人間の靈魂に授けられた善美を守るためには、偉大なる鎖帷子のような精神的鎧が必要です。本来、偉大なる鎖帷子(ジャウシャヌカビール)が精神的世界のみではなく、物理的世界においても守りとなると伝えられています。



まことにアッラーのなせるわざは偉大で、その尊さに讃美と感謝をささげたくなる。今回はウマルの“夜泣き”という出来事を通して、アッラーの導きを感じた。

以下、5月7日の育児日誌より。

やっとうマルが夜とおして眠るようになったと喜んでたのも束の間、数ヶ月前から夜泣きが始まった。最近では決まって1:00と4:00に起こされる。思えばタハジユド（深夜の礼拝）とファジュルの時間だ。そういえば娘2人の時も決まってファジュルの時間に起こされた。不思議なことにだいたいアザーンのなる頃に赤ちゃんも泣いた。サウジにいたのでアザーンがよく聞こえ、子供の泣く時間との関連に関心をもった。日本にいとアザーンは聞こえないので、今まで気が付かなかったが、そういえばウマルの授乳時間をチェックしてみるとだいたいアザーンの頃と一致する。この時間に泣くことが赤ちゃんにとっての礼拝なのかと思えてくる。赤ちゃんの体内時計にはアザーンがセットされているみたいだ。

それにしても、ウマルの夜泣きには“まったくうるさいな”とイライラして、“いったいつまで続くのか？”と睡眠不足に悩まされている。

何で夜泣きをするのだろうか？母乳が足りないのか？昼の運動量が少ないのか？泣いていても少し放っておこうか、などといういろいろ改善策を試みたが、やはりダメである。目覚し時計のように1:00と4:00にきっちり起こされるのだ。

目覚し時計で気がついた！

私は目覚し時計をかけていても無意識のうちに止め、たとえ気が付いても睡魔に負けてファジュルの礼拝を寝過ごしてカダーになってしまうことがある。しかし赤ちゃんがおっぱいをほしがって泣

く時にはどんなに眠くても起きて授乳する。赤ちゃんのこととなるときちんと起きることができるのに、アッラーのためのファジュルの礼拝を寝過ごしてしまうなんて、子供のこと以上にはアッラーのことを大切にしていなかった証拠である。何と意志の弱い我が魂（ナフス）よ。アスタグフルッラー。

もしかしたら、赤ちゃんの夜泣きは、私にとって“ファジュルの礼拝を欠かすな(カダーにするな)”というアッラーからのメッセージではないか。きっとこの夜泣きは赤ちゃんに起こされずとも、きちんとファジュルに起きて礼拝するようになるまで続くだろう。そう思うと、赤ちゃんの“夜泣き”は恵みではないか。アッラーから“絶対に目が覚める目覚し時計”をプレゼントされたようだ。

アッラーから見れば、「せっかくファジュルの礼拝のために起こしてあげようと“夜泣きのプレゼント”を贈ったのに不平不満を言っているあなたは何なのか？我が恩恵に感謝しないのか？いったいつになったら気が付くのだろうか？」と思っているのかもしれない。

ならば、今まで赤ちゃんの夜泣きに不満を感じながら嫌々仕方なく起きていたが、これからは「ウマルよ、ありがとう」と言って、夜泣きに感謝せねば。

アッラーに近づきたいという願いがこのような形で聞き入れられるとは、1:00の夜泣きはタハジユドのため、4:00の夜泣きはファジュルの義務の礼拝のため。授乳の間もボーッとしているのではなくズィクルしようではないか。

こうして私は子供を持つことで、子供の助けを借りながら、正しい道に導かれていく。アッラーの導きに感謝だ。

意志の弱い我が魂(ナフス)を目覚めさせてくれる

“泣き声”よ。アッラーから与えられたこの“目覚し時計”に感謝!!

それから1ヶ月が過ぎた。

その後、ファジュルの時刻が早まるにつれて、夜泣きも早まり、3:00前に泣くようになった。

ここ1週間は夜泣きがストップしている。

人間の心と体は不思議なものだ。気持ちの持ちよう、考え方で、こうもストレスがなくなり調子も良くなるのだろうか。それまで夜泣きでイライラして睡眠不足で疲れていたが、(今も睡眠不足に変わりはないが)、夜泣きに感謝するようになりファジュルに欠かさず礼拝するようになってからは気分も調子もよい。

今私は、目覚し時計がなくても目が覚めて礼拝するようになった。夜、布団に入ったとき、「明日もファジュルに起こして下さい」とアッラーに頼んで寝ると、必ずその時間に目が覚めるようになった。

そしてウマルの夜泣きは止まった。まるでもう“夜泣き”という名の目覚し時計は不用になったかのように。

だが主を畏れ(敬虔であつた)者は、樂園と泉に(住み)、主がかれらに授けられる物を授かる。本当にかれらは、以前善行に勤しんでいた。かれらは、夜間でも少しだけ眠り、また黎明には、御赦しを祈っていた。またかれらはその財資を、物乞いする者や、敢て請うことをしない耐乏者に与えていた。地上には信心深い者たちへの種々の印があり、またあなた自身の中にもある。それでもあなたがたは見ようとならないのか。(撒き散らすもの章 51/15-21)

太陽が(中天を過ぎ)傾く時から夜のとばりが降りるまで、礼拝の務めを守り、また暁には礼拝をしなさい。本当に暁の礼拝には立会人がい

る。また夜の或る時間を起きて礼拝を務めれば、あなたのために余分の賜物がある。主はあなたを、光栄ある地位に就かせて下される。(折って)言ってやるがいい。「主よ、わたしを正しい入り方で入らせ、また正しい出方で出させ、あなたの御許から、助けとなる權威をわたしに授けて下さい。」(夜の旅章 17/78-80)

み使いは早朝の義務としてではないニラカート(ラカト)の礼拝について「それは私にとって全世界以上に好ましいものである」と申されました。(「サヒーフ ムスリム」第1巻 p.496)

ジャービルは「アッラーのみ使いが『夜間には、ムスリムがアッラーに現世や来世の幸福を祈願すれば、主も必ずそれをお聞きとどけ下さる時がある。それは毎夜である』と言われるのを聞いた」と言った。(「ムスリム」第1巻 p.517)

アッラーのみ使いは「主は毎夜その三分の一が過ぎた頃に(天界から)下界の空まで降臨される。そして『われは至高の王者である。われは至高の王者である。われに祈願する者は誰か。われはその者に応えるであろう。われに求むる者は誰か。われはその者に与えるであろう。われに許しを請う者は誰か。われはその者を許すであろう』主は夜が明けるまでこのように仰せになっている」と申された。(「ムスリム」第1巻 p.517)

アッラーのみ使いは朝まで夜どおし眠っている者について「それは悪魔が彼の両耳に放尿した者である(注)。あるいは、彼の耳に放尿した者である」と言われた。(注)悪魔が彼の意のままにしたという風刺である。これは悪魔がその者を愚弄し完全に支配してしまうことで、この為には彼はアッラーへの服従を怠って、眠ってしまうのである。不浄なるものは身体に付着しやすく、それが体内に侵入して諸々の器官に害を及ぼし、怠惰な肉体となる因となる。糞尿は不浄なものの代表で、人体のあらゆる孔から浸入して器官を侵す。特に耳は鋭敏な器官の一つで、侵されやすいとされる。(「ムスリム」第1巻 p.533)

・ 「あなた方の誰でも就寝した時、悪魔があなた方の首筋に三つの結び目をつくる(注)。もしそれら一つ一つの結び目をつけたまま寝れば苦しみ長い夜を過ごすこととなる。もし、彼が起きてアッラーの御名を唱えればその結び目の一つは解ける。そして、もし彼が沐浴すれば二つの結び目が解ける。なお、彼が礼拝を行えばもう一つの結び目は解けて、彼ははつらつとして朝を迎えるであろう」/(注)悪魔がつくる結び目とは人を怠惰な習性に落しめる端緒となる事柄を比喩的に表現したものである。夜間の礼拝には三つの関門がある。一)深夜の起床、二)沐浴、三)礼拝であり、それぞれの行為遂行はなまやさしいことではない。それを悪魔の三つの妨害に例えたのである。そして、人が敬神性を喪失し、あるいは忘却して惰眠をむさぼることで、その結び目は固くなって解けなくなってしまう。(「ムスリム」第1巻 p.534)

・ み使いは、ある女性が私と一緒におりました時、私の所に来られました。彼は「この女性はどなたですか」と申されました。私は「彼女は礼拝のために眠らないという女性です」と言いました。み使いは「あなた方に出来ることをしなさい。アッラーに誓って、アッラーはお飽きにならないがあなた方は飽きてしまうであろう。アッラーの最も好まれる宗教上の行為は継続的に行われるものです」と申されました。(「ムスリム」第1巻 p.538)

・ アッラーのみ使いは「あなた方の誰かが夜(礼拝のために)起床し、クルアーンの誦唱に口ごもったり、何を讀んでいるのか分からない時はその者を眠らせよ」と申された。(「ムスリム」第1巻 p.539)

・ アッラーのみ使いは「誰でも眠り、または忘れて礼拝を失した者はそれを思い出した時挙行せよ。アッラーは『われを心に抱いて礼拝の務めを守れ』と仰せられた」と申された。(「ムスリム」

ム」第1巻 p.470)

・ アッラーのみ使いはアスルの礼拝後日没まで、また早朝の礼拝後太陽が昇るまでの間は、礼拝の挙行を禁じられた。(「ムスリム」第1巻 p.563)

・ 預言者はいわれた。「雄鳥が鳴く声をきいた時、アッラーに恩寵を願って祈りなさい。雄鳥は天使たちをみて鳴きだすからです。また驢馬がいなかった時には、アッラーに悪魔からの加護を祈りなさい。驢馬は悪魔をみていなくなからです」(「ムスリム」第3巻 p.623)

・ アッラーのみ使いはいわれた。「ベッドに行く前に、礼拝の時と同じウドーを行ないなさい。それから、右側を下に横たわり、次のように唱えなさい。「アッラーよ、私は、私の顔をあなたにむけます。私の全てをあなたに委ねます。あなたへの期待と畏怖の念をもって、あなたに私の全てをおまかせします。いかなる頼り人も救い人もあなた以外にはおりません。私は、あなたが啓示された聖典と、あなたが遣わされた預言者を信じます」。これらをねむる前の最後の祈りの言葉としなさい。そうすれば、もし、夜中に死んだとしても、正しく、イスラームの信仰(フィトラ)をもって死んだこととなります」(「ムスリム」第3巻 p.613)

・ 預言者は、就寝する時には、いつも「アッラーよ、私が生き得るのは、あなたの御名によってであり、私が死ぬるのもあなたの御名によってであります(注)」と唱え、そして、起床する時には、「私たちに死(眠り)の後、生命を与えて下さる御方、審判の日に私たちが復活して集まりゆく御方、アッラー以外に讃うべき方はおられない」と唱えられた。/(注)生きている時にも死に際してもアッラーの名を唱えることを意味する。(「ムスリム」第3巻 p.614)



「忍耐とは、災難の最初の衝撃を受けた時にあるものである」第2回

災難に対しての忍耐

忍耐すること、歯を食いしばること、耐えること、耐久性を見せること、動揺しないこと、意志を麻痺させないこと、毎日困難な出来事をじっとこらえること、これらは当然容易なものではない。ただ、これらは全て、災いの最初の衝撃を受けた瞬間に行なわれなければならない。

我々を災いが襲った時、最初はそれは耐えることなどできないものように見えるかもしれない。すぐに、このショックを克服する術を探し求める必要があるのである。場所を変えたり、他の状態に移ることは、人の心理状態を変化させ、我々にショックを与えた事件を忘れさせる。これは自分の状態を変えてみることによって可能となる。立っているなら座ってみたり、やっていることを変えてみたり、例えばウドゥー（小浄、礼拝する前に体の一部分を清めること）をしたり、礼拝をしたり、あるいはそのことについて話すのをやめてみたり、あるいはいる場所から遠ざかってまた違った雰囲気の中に身をおいてみたりする事によっても可能であろう。時には、少し眠ることでショックが克服できることもある。どのような形であれ、状況を変える事によってショックをやわらげ、耐えられないように見えた苦しみもわずかであれ軽減される。

宗教行為における忍耐

日に五回の礼拝、年に少なくとも一月の断食、喜捨、その他しもべとして従うべきご命令は、ただ忍耐によって実現する。これらは人間の生涯に規律を与え、また別の色合いを与える。このような生き方は、輝かしい光の道の上に過ぎて行き、生涯に豊かさを与え、天国を得る。そのため人は歯を食いしばり、忍耐を重ねて宗教行為を行い、自らの人生に光を与えるのである。

忍耐は、宗教行為を継続させる上で重要なものである。初めて礼拝を行い始めた者にとって、最初は礼拝することは困難に見えるかもしれない。しかし少々我慢して、その魂が礼拝と一体になるようになれば、もはや礼拝をしないことが彼にとっての最大の苦しみと感じられるようになるのである。断食や喜捨や巡礼などについても同じことが言える。

考えてみてほしい。聖地巡礼のような困難な行為を一度達成した者が、毎年行く事を望み、それが制限されると彼らに気を狂わせるような苦しみを与えるようになるのだ。これほどの、宗教行為に対する熱意は、一つの観点からは、その行為が困難なものであるという最初の衝撃を克服したということの意味するのである。これは全ての行為についても言える。



3 換言

まわりを見渡してみよう。

いたるところで「明白なるイスラームのディーン」に対する攻撃がある。これに対し胸に刀が刺されたように傷の痛みを感じない者たち、さらに死にそうに感じない者たちはその教え(ディーン)を心に引きつけて捉えなおさなければならない。「アッラーが機会を御与えにならなかった」と言いながら、脇に退く者や、悲しみ悩む事もなく気軽な生活を続ける者たちに尋ねてみたい。そのようなことばで、貴方はアッラーに対する信頼を言い表そうとしているのだろうか？それに対し否と私は答える。真理の主が恵みを与え給う人々はこのようには言わない。彼のために今まで何をしてきたのだろうか？真夜中に何滴の涙を流しながら、サッジャーダ(礼拝用の敷物)の上で時を過ごしたのだろうか？「明白なるイスラームのディーン」のためにどれほどうめき苦しんだのだろうか？何度、真から心が張り裂けそうになっただろうか？

アッラーは、尽きることのない英知を、必要としている者には、彼自身の存在を否定する者たちにさえ、その可能性を与え給う。豊かさと裕福さの中で生活しつづける者達(になること)を望むこともできる。彼らを羨ましく思い、「私達にも御与え下さい」と言うことは、アッラーに対し、そして私達が導かれた教え(ディーン)に対し、そして教えの考え方に対し不敬であるといえる。自分自身を振り返ってみよう。そして私達は彼に相応しい、彼の御恵み恩恵に相応しいしもべになろうと努めよう。

さらに私達がしっかりしていないのに、国際間の均衡やら、それらの統治に関係する者であるか否かなどを語るができるだろうか？生半可のムスリムさでは、(到着地点は見えて来ず)どこにも至ることはできない。中途半端のムスリムさではなっただろうか、オスマン帝国を崩壊に追いやったのは・・・真実を愛するムスリムでなければならない。アッラーから善きことを望む前に、それら善きことに相応しい人間にならなければならない。「アッラーフンマ アフスィン アキーバタナー フィー ウムーリー クリハー:アッラーよ、すべての行いにおいて、結果を善きものと為し給え。」

私は私達が誠実であるとは思えない。いたるところで、偽善が見られる。私達の行動はすべて見せかけだけだ。自我が欲する数多くの空白が心の中に見出せる。私達は限りなく弱い存在だ。だが悔悟の扉はラッパが吹かれるその時まで開かれている。アッラーが赦し給わぬことはない。

そうであるなら、私達は状態を立て直し、悪しきことに対し自賁の念を感じながら、もう一度、悔悟し、アッラーに許しを請い、私たちを正しく方向付けよう。自分自身がどのような状況下であっても、方向付けたように生きるために、何をためらう事があるう？

どうして敵対心という窓から、他の人の顔を眺めているのだろうか？仲たがいの徴を心の中に潜ませているのだろうか？

今まで語った言葉は、私の自我の欲するままに述べたものではない。わたしは自我の欲するところに

3昔々ニューフラテス川のほとりに、民衆から慕われたスルタンがおりました。壊れたつぼで水を汲み、愛するスルタンに捧げた人がおりました。もともと水源そのものがスルタンの所有だったので、このこわれた壺では、なかなか水をすくい上げることができません。それでも、一生懸命水を汲もうとした貧しい人のお話が伝えられています。

「こわれた壺」はその話に因んでいます。M.F.ギュレン師が語っている言葉を文字にした文章の訳です。(HPからの転載)

より、諫める事はしない。が、真のイーマーンに対しての無関心さを消化できない。イーマーンを深めるというような思いがなぜ生まれてこないのだろうか？なぜ手の中にある宝のような作品から遠のいているのだろうか。なぜそれらを読む時見知らぬ者のように口ごもるのだろうか。なぜ崇拜行為を為す時、迂闊さが生じるのだろうか。なぜ読み、考え、想念するとき、強制労働のように受け入れるのだろうか。なぜ行為に見せかけが生じるのだろうか。なぜ私たちの心は覆い隠され真つ暗なのだろうか。なぜ？なぜ？私はこれらの問いに答えを見出せないでいる。

これらの悩みが私を忙しくさせている。みんなのほとんどは私をよくご存知だろうが、私は少々物事を深く感じてしまうのかもしれない。実際、私の顔を叩かれなくても、ある者の見せかけの行いが、私を悲しませ、まるで叩かれたみたいに私は痛みを感じる。

たとえば誰かが理由もなく声を高くして礼拝したり、タスビーフ（アッラーへの称讃）をしているでしょう。（声を大きくするのに気を取られて）実は、彼は声の中に心が込められていないのだ。それが行為を台無しにしていることにも気がつかない。あなたがたも（真実を）言えない。語るのは意識的でも、感じることや分かることというのは無意識的なものだ。（そのように）私にも起こる事が起きている。

人まね、必要以上の強い望み、ねたみ、疎外感、アッラーのお望みにならない感情、小さなことでも罪のある言葉を口にすること、行動の品位を考えないこと、不真面目さ、あつかましい態度などが気がかりの点であり、キズはこれらすべてといえる。目に見える傷ならば時とともに回復するが、目に見えないものなら？心の中の傷は？これらはそう簡単には治らないもので、大変難しい外科手術が必要となる。師が「私たちの中身と外見をひっくり返すとすれば、聖アイユーブ（a.s）よりもより悩み多き者であることを知るであろう。」とおっしゃられた（が、まさにそのとおり）。

罪を容易に捉える者たちがある。彼らは凝り固まっている性質の上に役立たずのようにあぐらをかく。ある者は金銭に弱く、ある者たちは飲食のごく日常的なことに対して弱く、ある者たちは違った種類の自我の欲望を持つ。又さらに言えば、アッラーが非合法となし給うものに「ああ、合法であればよかったのに」と言うものもあり、「不信仰の囲い（制限）がなければよかったのに」という者も出てくる。

本来なら人間は自分自身をある形で見出すというか見出すべきだ。預言者（S）や高貴なる教友達や、彼らを模範として見習う者たちと見比べて、空白を見出せるだろう。その反対に、この弱さ、空白に気づかず本性丸出しの状態にもなり得る。これは心に封印をする原因となり得る。悪魔の状態はこのようである。悪魔は真実と真理を知らないわけでない。預言者（S）についての知識は持っている。「貴方の偉大さに誓って貴方は勝利者であられます。」と悪魔は言う。彼の偉大さに誓っている。だが、クルアーンに反対しアッラーの命に背いた。光明の傍ら暗黒の世界で自分自身を守ろうとする。悪魔はこのように振舞おうとする。なぜならそのような振る舞いが本性となってしまった。その悲惨な状態で彼自身を保っており、そこから離れる事ができない。完全に鍵をかけてしまっている。人間もこのようである。ある者に閉じ込められるとそれに反して最も柔軟なものに対してさえ反発する。さよう、悪魔も、不信仰の中に閉じ込められてしまい、罪を犯す事が本性となってしまった。

さよう、アッラーは私たちの中身を外見のように、外見を中身のように知り給う。そのためこの弱さと空白が本性となる前に自らを教育しなければならない。時には悪魔は右から近づく事もあり、それを赦してはならない。人間は明らかな事、たとえば礼拝のような明白な崇拜行為の原因を知らずに、それから喜びを感じる、しかしこれはもしかしたら試験（試練）かもしれない。感じたその特別な感覚が人間の自

我への信頼を増す原因となる事もある。そう言う意味でこれは試練でもあり、欺きでもあり得る。このように今までも多くの人々が騙され足を踏み外してしまった。

不信仰における欺きとはこのようである。考えてみよう。ダッジャー（終末に現れるとされる偽救世主）が人間に影響を与える力のような心を捉える得体の知れない力が存在する。まわりの雰囲気（イデオロギ）に身を任せる者たちはこれを増大させ、しばらくすると望んでもその世界から出られなくなる。清らかな力を持つ事によって、ここから救われるように・・・だが、人間は自分自身が清らかで欺かれたいと思っはならない。いろいろな物に惑わされずただアッラーに身をお任せしよう。お任せし、そしてアッラーに対し誠実であろう。人間は心から誠実さという性質で満たされなければ、又しもべの中に他の何か混同しているとしたら、その時は人間の持っている善きことでも、実は見せかけであり偽善の中で埋没していくことになる。

生半可な見せかけのイーマーンが存在する。それは（ムスリムには）相応しくなく、身につけた衣服（イスラーム）の役割を果たさないの、アッラーはその者からイーマーンを取り去り給う。

善きものに対してだけではなく、悪い事柄に対してもこのように感じたことを言い表せない場合もある。突然、何の理由もなく人間は心に悪が生まれる。貴方がたの見たものが貴方がたを危い方向へ追いやり、貴方がたの足を踏みはずさせてしまう。人間を岸壁に追い詰め、ついに後戻りができないような岸に至らせる。その為（S）は「あなたを悪に呼ぶ者に出会ったとき、気をつけてお待ちなさい。そしてアッラーに悔悟し、アッラーに戻りなさい。」とおっしゃられる。心理学においても同様に、心理学者たちは悪に出会ったときは状態や環境を変えることにより悪から守られると述べている。

さよう、「わたしは反抗と言う大海に帆を上げてしまったようだ、私はもう海辺には戻れない。」と言われるように、反抗の大海に帆を揚げる者達は皆このように始まる。始め帆の角度が小さくて気がつかない。足の指先で立つのも難しい状態だ。が次第に足の裏までつける広さができそして1歩入るような幅ができ・・・と言っているうちに、みるみる思いもかけないほど大きな角になり、さて留まろうと思うときにはもう遅い、遠い遠いところまで来てしまい戻る事も望んでも戻れなくなってしまふ。これよりもっと危険なのはこのように最初は意識していても、ある時から何が起きているのかを気にならなくなってしまふことだ。

不法なことが自分自身をどこへ引きずりこむかを知ることができなくなる。そのため目をそらし、耳に綿をつめこみ、口を閉じることが必要なことについて気につけない。たとえば自我の感情の赴くがままに話したり話させたりすることやアッラーの怒り給うことに目を開く時、悪賢いメロディーがいっぱいの耳で色々なことを聞いた時など・・・

アッラーよ、私たち皆に限り無い御許しと深い深い御赦しと完全なる慈悲を恵み給え。礼拝、祈り、断食において小さな罪を軽視する者たちに知恵と思考力と情け深さを与えたまえ。「小さな罪と言ひ張ると大きな罪となる。悔悟の時大きな罪は赦される。」という真の意味は大きな罪といわれているのは実は小さな罪であるということであろう。というのは、大きな罪はそれが重大であると知られている点において大きいとは言えない。罪の重さを知るなら、悔悟に急ぎアッラーに赦しをこい、その状況から救われる。だが、小さな罪とは知らずに又は知ってはいても重視しなければ、「もう1つ、もう1つそしてこれは最後のひとつ」と言いながらやめようとしな。これが悪魔の戦略なのである。罪人を美しく見せ、自我を欺く。ユースフ章で「(人間の) 魂は悪に傾きやすいのです。」(12章53節)と明示されているように、人

間は罪を飾る。催眠をかけられ人間の目を束縛する。しかし、一方、人間とはこのような些細なことに犠牲になるほど下等な創造物でもない。人間は最も美しく良い形で造られた。世界に十分通用する良い特質を持っている。だから、これら小さな出来事で沈没してはいけない。目指す目的はアッラーのみでなければならない。またはこのようにも申し上げられる。人間は生まれながらに自我の欲望を持つが、合法なよろこびや楽しみで満足させ、その（合法の）外に出ないよう努めなければならない。歯を食いしばり、唇をかみしめ、「ラー ハウラ・・・（アッラーによるほか完璧に物事をおこなう力はありません、の意のドゥアー）」を唱えなければならない。

決して「私は大丈夫、沈没しない。」と言わぬように、悪を命じる自我は（貴方を踏みつぶす）残酷な車輪である。偉大な人々を跪かせてきたのだ。預言者ユースフ（彼に平安あれ）のような預言者でさえ「（人間の）魂は悪に傾きやすいのです。（12章53節）」と伝えているが、この節で、それ（自我）が信頼できないことを私達に知らせているのではなからうか？

ある神の友がこのようなお話をなさっている。「二人の兄弟がいたそうだ。一人は町で、もう一人は山の畑の中に住んでいる。町で住んでいる兄（または弟）は正直さ、清らかさ、耳、目、口、舌・・・を罪から守っている。彼は町で生活しているときでも、自らを神聖な仕事（イスラームへの奉仕）に身を捧げているため、アッラーが彼を御守り下さっている。またはイスラームに殉じ、自己中心さを消し去り、「この振る舞いは私にはふさわしくない」と言いながら自分を守っている。この家の入り口の前に、水入れの皮袋がつる下げられている。中には水が溢れるほど入っているのに不思議にも一滴も垂れていない。山の中に独りで住み、いつもアッラーと固く結ばれていたもう一方の兄弟が、ある日、町を訪れた。彼も水入れの皮袋を持っていた。山にいるときに全く水はこぼれなかった。町にやって来ると、彼の兄弟の皮袋のとなりに、自分のもつるしたそうだ。すると、何分か後に水が垂れ始めた。おみごと、町に住む者よ、町で、つまり危険な場所で、自分自身を見失わずにアッラーとの結びつきを忠実に保ち続けさせるとは、なんと見事な手腕であることよ。

さよう、限られた環境の中で、罪から遠く、世捨て人の生活をし、ただ崇拜行為に忙しくするときでさえ、人の口に悪魔がくつわをはめるのなら・・・罪が耳の穴から、目の裂け目から道を探して入りこむのなら・・・自我が彼自身を毎日違ったガイヤ（地獄にあるとみなされている井戸の名）にひきずりこむのなら・・・そのような危険な状態で人は立ち続けることはできず、転がり落ちてしまうことだろう。

しかし、このように諫める権利が私にあるだろうか？又、あなたがたが妥当と認めてくださるかどうかが私には分からない。が、私の無作法にもかかわらず、打ち明ける必要があることを皆さんは認めてくださるかもしれない。もしよろしければ、毎日、あなたがたが必要となさる分銅（比喩的に道徳価値を理解するのに役に立つ教訓）としてお使いいただき、秤の皿にのせて（道徳を）計っていただければ幸いである。





なんとなろう

貴方をにあいまみえる熱愛者たちにとって、あなたいがいの美しさがなんとなろう、

貴方を友とする忠実なる者にとって、あなたいがいにまみえることがなんとなろう、

あなたのお声を拝聴する者たちにとって、あなたいがいの吐息をなんとしよう

心ある者にとってあなたは王、あなた以外の支配者をなんとしよう、

くちびるにはあまいあまいシエルベットのかがりか、あなたをズィクルする者たちにはそよぎ、

もしあなたの愛を味あうのなら、カイマクや蜂はちみつがなんとなろう、

心があなたを敬愛するなら、あなたの御命に急ぎまいるなら、

あなたにたどり着きそれでもう十分なら、完全なる力強さなどなんとしよう、

貧しき者たちはあなたと共に富めるものとなり、あなたは弱き者たちの唯一のよりどころ、

慈しみと共にあなたを想う者たちにとって、くるしみ、悲しみがなんであろう、

A.エンペル



預言者たちの風格：第5回

常に正しい道を勧められた

預言者ムハンマドは、御自身が常に正しい道を生きられたように、そのウンマにも、正しく生きることを勧められた。ここでそのいくつかを取り上げてみたい。

「私に、この六つの事を守ると約束してほしい。私はあなた方に天国を約束しよう。

1. 何かを話す時は正しいことを話さない。
2. 約束した時はそれを守りなさい。
3. 預かり物について信頼に答えなさい。
4. 性的な行動は確かな意志に基づいて行いなさい。
5. あなたにとってハラーム（宗教上禁じられているもの）であるものに目を閉じなさい。
6. 手をハラームであるものから遠ざけなさい」⁶

預言者ムハンマドは常に、矢のようにまっすぐ生きられ、その生き方を勧められ、御自身のその正しさは、最も高い段階に達していた。預言者ムハンマドにはただ、アッラーへの忠実さがあつたのである。それはある意味では限界に達しているほどであり、ある意味では限界を超えていたと言えるほどである。ミーラージュ（昇天）によって極めて上がって、カーディ・イヤズが述べているように、足をどこに置いたらいいかわからないような場所に達した。彼に「片方の足をもう片方の足の上に乗せなさい」と言われた。当然のことだが、預言者ムハンマドはあらゆる意味で、一人の人間である。しかし、その正しさが、そのお方をこの

ような段階にまで引き上げたのである。そして我々にもそのように生きることを勧められ「正しいことを話す」と約束しなさい。一生の間嘘をつかないようにしなさい。私もあなた方に天国を約束しよう」とおっしゃられているのである。他のハディースでも、次のように述べられている。

「疑念を抱かせるようなものは放棄しなさい。正しく生きることは人間に信頼をもたらす。嘘は心を痛み、苦しめるものである」⁷

「常に真実を探し求めなさい。そのために損をしたように見えたとしても、それはあなた方に救いとなるものである」⁸

「正しい道から離れてはいけない。それはあなた方を清らかにし、清らかさはあなた方を天国に導くだろう。誰であれ正しい道を生き、常に真実を探し求めていれば、アッラーは彼を忠実な者とされるであろう。嘘をつくことは絶対にいけない。嘘は人間を罪に、そして地獄に導く。誰であれ、いつでも嘘をつき、嘘を探求していれば、アッラーは彼を嘘つきとされる」⁹

救いは、正しく生きることにある。人間は正直に生きたなら、その死は一度だけである。しかし、嘘は一つ一つが一つの死である。次号へつづく..

⁷ Tirmidhi, Qiyamah 60; Ibn Hanbal, Musnad 1/200

⁸ Hindi, Kanz al-'Ummal 3/344; Munavi, Feyzu'l-Kadir 3/232

⁹ Bukhari, Adab 69; Muslim, Birr 105; Abu Dawud, Adab 80

⁶ Ibn Hanbal, Musnad 5/323



守られている惑星：地球

太陽系での、そして宇宙における地球の位置はアッラーの完ぺきな創造の1つです。

最近の天文学の研究結果は我々の地球にとって他の惑星の存在の重要性を示しています。例えば、木星の大きさとポジションは地球にとって非常に重要であると分かりました。天体物理学の計算が、太陽系の最大の惑星として、木星が地球と他の全ての惑星の軌道に安定性を供給することを示しています。地球に対する木星の保護役はジョージ・ウェザリル博士の論文「木星がどれだけ特別な存在か」で説明されています：

木星のような正確に置かれた大きい惑星がなければ、地球は今まで数千回すい星や隕石と他の惑星間の残骸に衝突されていたでしょう。木星がなかったら、我々は太陽系の起源を研究するどころではなかったでしょう。¹

すなわち、太陽系の構造は人類や他の生き物が生きるために特別に設計されたのです。

同じく宇宙における太陽系の位置を考慮に入れましょう。我々の太陽系は銀河の巨大ならせん状の腕の中心より端により近い1本に位置しています。それに何の利点があるのでしょうか？著書「自然のデステイニー」の中で、マイケル・デントンはこのように説明します：

顕著なことは宇宙がこの我々自身の本質のためにそして我々の生物学的な適用のためだけではなく、その宇宙を理解するために創造されたのです。我々の太陽系の位置によって、我々は夜遠くを凝視して、そして宇宙の全体的な構造の知識を得ることができます。太陽系が今の位置ではなかったら我々が決して銀河や宇宙の美しさを見ることができなかったでしょう。²

つまり、銀河での地球の場所さえ人類が生き続けるために意図されたという証拠です。

宇宙がアッラーによって創設されて、そして取り決められることは明白な真実です。

人々がこのポイントを理解することができない理由は彼ら自身の偏見です。けれども偏見がない客観的な心の持ち主は、宇宙がアッラーによって我々のために創られたことをスムーズに理解できることでしょう。そして、それはクルアーンでは以下のように示されています。

われは天と地、そしてその間にあるものを、戯らに創らなかつた。それは信仰のない者の億測である。だが（いずれ地獄の）火を味わう信仰のない者こそ哀れである。（サード章：27）

この深い理解はクルアーンのさらにもう1つのアーヤ（節）で明らかにされます：

本当に天と地の創造、また夜と昼の交替の中には、思慮ある者への印がある。

または立ち、または座り、または横たわって（不断に）アッラーを唱念し、天と地の創造に就いて考える者は言う。「主よ、あなたは徒らに、これを御創りになつたのではないのです。あなたの栄光を讃えます。火の懲罰からわたしたちを救って下さい。（イムラーン家章 [アーリ・イムラーン]：190-191）

1. G. W. Wetherill, "How Special is Jupiter?", Nature, vol. 373, 1995, p. 470

2. Michael Denton, Nature's Destiny, p. 262



一日五回の礼拝の定時 (第3回)

第9のことは〔一日に行なうサラート（礼拝）を5回に定時された理由について説明する〕

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

فَسُبْحَانَ اللَّهِ حِينَ تُمْسُونَ وَحِينَ تُصْبِحُونَ وَلَهُ الْحَمْدُ

فِي السَّمَاوَاتِ وَالْأَرْضِ وَعَشِيًّا وَحِينَ تُظْهِرُونَ

慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において

「それで、夕暮にまた暁に、アッラーを^た讃えなさい。天においても地においても、栄光は彼に属する。午後遅くに、また日の傾き初めに（アッラーを讃えなさい）」¹²

兄弟よ。あなたは日に五回の祈りの時間がなぜ指定されているのか、それにはどんな英知が含まれているのか、尋ねた。私はそのたくさんの英知の中から、ほんの一部分について述べてみよう。

それぞれの祈りの時間は、地球の公転におけるそれぞれの時間の区分の始まりを示しているのと同時に、神の力と、普遍的な神の摂理の鏡でもある。それで、さらなる賛美でもって全能の神をたたえることが定められている。そして、それぞれの時間の区分の間で蓄積された神への賞賛と感謝で、神をたたえることが定められているのである。それが規定された礼拝の意味である。この、少々繊細で、そして深い意味を理解するために、あなた方は、次の五つのポイントを私自身の精神と一緒に、聞いてほしい。

第五のポイント

本来人間は非常に弱い。それにも関わらず、多くのものが彼に影響を与え、彼を嘆かせ、深く悲しませる。同じく彼はまったく無力である。それなのに、彼を苦しめる災難と敵は数多い。同じく彼は多くの欠点を持つ。それでも、彼の要求は実に多い。同じく彼は怠け者で、無能であるが、その人生でやらなければいけないことは数多い。彼が人間であることは彼をこの世界に結び付けるが、彼が愛するものや親しんだものの消失が彼に苦痛を与える。同じく彼の理は高い目的と永続的な成果を彼に示す。にもかかわらず、彼のできることは少なく、命は短く、力はなく、辛抱強さは不十分である。

ファジュール（早朝の時間）。精神が栄光なる力の神に頼り、嘆願し、礼拝によって成功と援助を神に求め、その日彼の身に起こるであろう出来事や、彼の背にさせられるであろう重荷のために助けを求めることはいかに不可欠なことか、明らかに理解されるであろう。

ズフル（正午を過ぎたばかりの時間）。それは一日の絶頂期であり、その衰えの始まりでもある。毎日の仕事に到達点に近づく時であり、仕事の圧力からの短い休憩のときである。そして、神の恵みが明らかにされる時でもある。人間の精神のために、この正午過ぎの礼拝がどれほど素晴らしく、快く、必要なもので、そして適切であるか理解されるであろう。プレッシャーから逃れ、不注意さを振り払い、無意味なほかなことを脇へよけて、神の栄光と偉大さの前に自分の無能さを示して平伏し、神からの助けを求める。全ての恵みのために賞賛と感謝を捧げる。平伏して、彼の愛と、驚嘆と、謙遜さを訴えるのである。これを理解しない人は真の意味での人間とは言えない。

アスル（午後の時間）。それは秋の物悲しい季節、哀しみに沈んでいる老年期、そして時の終わりの憂鬱なピリオドを思い起こさせる。日々の出来事が終末を迎える時でもある。力強かった太陽は、沈み始め、人間はただの客であり、何もかもがはかなく不実であることをほのめかす。人の精神は永遠を切望し、情け深さを崇拝し、別れによって苦痛を与えられる。真の意味での人間性を持つ人なら、このようなことを理解できるだろう。午後の礼拝は、人にとって崇高な義務であり、適切な奉仕であり、人間としての返礼を行なうのにふさわしい方法であり、快い喜びである。永遠なる存在の前で、懇願を申し出ることによって、果てしない、無限の慈悲にすがり、また、数え切れない恵みに、感謝と賞賛を捧げることによって、それから神の力の前に深くお辞儀をすることによって、そしてまったくの謙虚さで、無限の神の前に平伏することによって、心と精神の本当の意味での慰めを見つけ、神の壮大さに対して信仰のこころがまえをすることによって、

マグレブ（日没の時間）。冬の初めの、夏や秋の素晴らしい生物たちとの悲しい別れを思い起こす。それは、死によって、人間が自分が愛する全てのものを痛ましい出発の中におき残して、そして墓に入るであろう時のことを思い起こさせる。この世界の死によって、その断末魔の苦しみの中に、全ての住人が他の世界へ移っていき、そしてこの試験の場の明かりが消される時のことを思い起こさせる。はかなく、つかの間の存在でしかないものを崇拝するものたちに厳しい警告を与える時でもある。

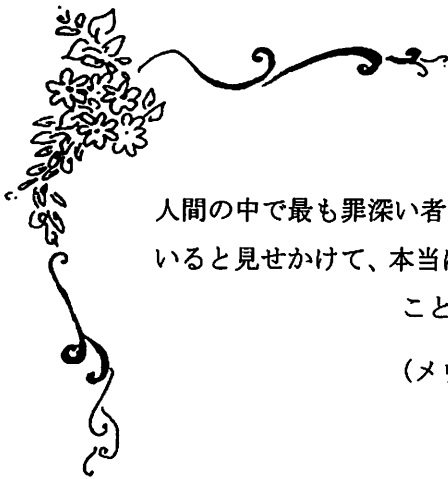
すなわち、このような時間において、マグレブの礼拝では、永遠の美である存在を望む鏡のようである人間の精神は、その顔を、永遠なる力強い王座に向ける。その力が偉大な仕事を実行し、この巨大な世界を変えることのできる永遠の存在に対してである。つかの間の存在に対して、神は偉大であると宣言し、そういうほかな存在から離れる。全ての賛美を神に、と述べることによって、人は彼の主の恵みの中で手を握り締め、永遠の存在の御前に立つ。それから **أَيَّاكَ نَعْبُدُ وَأَيَّاكَ نَسْتَعِينُ** 「私たちはあなたにのみ崇め仕え、あなたにのみ御助けを乞い願う」¹⁴と宣言することによって人は自らの信仰を明らかにし、何もの助けも必要とされないそのお方からの助けを乞うのである。

そして彼は頭を下げ、無限の強さ、力、比類なき完全さの前に自らの弱さ、無能さ、卑しさを明らかにし、

¹⁴ 聖クルアーン 開端（ファーティハ）章 1 / 5

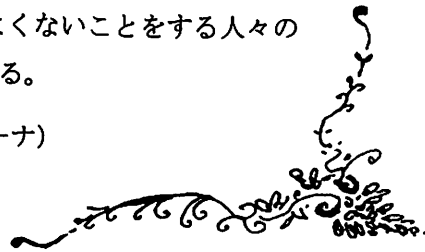
こういう。سُبْحَانَ رَبِّيَ الْعَظِيمِ 「あらゆる欠点や欠如と無縁の存在であられる偉大なる我が主の栄光を讃えます」¹⁵。その後その不滅の美しさ、不変の神聖さの前に平伏す時、そのお方の存在以外の全てを否定することによって人はその愛と敬意と畏怖を宣言する。全能で慈悲深い、永遠の存在を見出す。そして

سُبْحَانَ رَبِّيَ الْأَعْلَى 「莊嚴崇高な我が主の栄光を讃えます」¹⁶ と言い、彼の偉大なる扶養者があらゆる欠点から無縁であることを宣言する。それから人は神の唯一性と、ムハンマドが預言者であることを証言する。彼は座り、全ての創造物へ挨拶と祝福を贈る。そして偉大なる預言者を歓迎することによって人は彼への忠誠を新たにし、彼がくだされた命令への服従の気持ちをも新たにす。その信頼を明らかにし解明するため、人はこの宇宙という宮殿にくだされた的確な命令を観察し、そして聖なる創造者が唯一であることを証言する。ムハンマドが預言者であることを証言することによって、彼がアッラーの使徒であり、その印と、聖クルアーンという宇宙の言葉の通訳者であることをも証言する。マグレブの祈りはこのために行なわれる。だから、この日没の祈りがいかに素晴らしく、また本質的な義務であるか、気高く、喜びに満ちた崇拝行為であり、この一時的な客室でしかないこの世においてつかの間の、しかし最上の会話、幸福であること、これがいかに重要なことであるか、これらを理解しない人は真の人であるとは言えないであろう。



人間の中で最も罪深い者は、自分自身をよい仕事をしていると見せかけて、本当は、よくないことをする人々のことである。

(メヴラーナ)



¹⁵ 礼拝で立礼のとき唱える文句

¹⁶ 礼拝で平伏のとき唱える文句



「ノッキン・オン・ヘブンズドア」 Knockin' on Heaven' s Door

今年の4月、私の高校時代の恩師が定年前にもかかわらずすっぱりと職を辞して「フリーター」になりました。教育熱心で授業もとても面白い先生だったので、驚きました。辞めた理由を尋ねたところ、「人生は短いから、残りの時間を自分の好きな事をしてすごしたい」との事でした。多趣味な先生でしたので、なるほどな、と納得したのですが、先日新たな事実がわかりました。実は彼は昨年未から原因不明の内臓疾患にかかり、どうやら死ぬかもしれないと覚悟を決めたようなのでした。死ぬ時期がそう遠くないと思った彼は、自分がやりたいと思ってもなかなか出来なかった事をしてのんびり過ごそうと考えた、とのことでした。

人間は、誰でもいつかは死んでしまいます。ですが、普段その事を本当に意識する事は少ないのではないのでしょうか。実は明日、何かの理由で死んでしまうかもしれない。でも、私などは「そんなこと、ない、ありえない」と自分に言い聞かせて毎日を過ごしています。他の人はさておき、自分だけはおぼあちゃんになってから“大往生”するつもりだったりします。ですから、やりたい事だけならまだしも、やらなければいけない事でさえものぼしのぼしになってしまったり、一日を無駄に過ごして「明日やればいいや」が口癖になってしまっていたりします。明日私が生きているかどうかなんて、わからないのに。

そんな事を考えると、人は「あとこのくらい生きられるかもしれない」という期間を言い渡された時にこそ、真剣に人生を考えるのかもしれない。標題にあげた『ノッキン・オン・ヘブンズ・ドア』は余命いくばくも無い、と告げられた二人の男の話です。

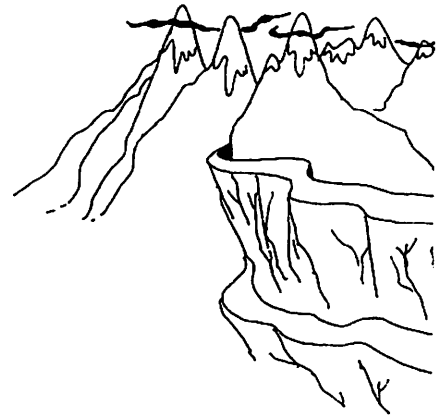
勝ち気で粗暴なマーティンと、気弱で内向的なルディは病院での検査で脳腫瘍と骨髄腫と判り、末期病棟に入院させられることになりました。検査が終わればまたいつもの生活が待っていると思っていた二人は驚き、悲しみ、怒ります。性格が対照的な二人ですが、たまたま病院の厨房でやけ酒を飲んでいたとき、マーティンが「天国じゃ、みんなが海の話をするんだぜ。海がどんなにきれいかってね」と言いました。ですが、ルディはまだ一度も海を見たことはありません。「海を見たことないやつは指くわえてるしかないな。おまえ、話には加われないぜ」。それなら見にいかなくちや、と、二人は病院の駐車場からベンツを盗み、海を見る旅に出て行きます。ですが、そのベンツはギャングの車で、大金が積まれていたのです。そうとは知らない二人は銀行強盗を働き、警察にもギャングにも追われる羽目になってしまいました。彼らは果たして海にたどり着くことが出来るのか…。

車泥棒に銀行強盗など、この二人はあまり「いいこと」をしてはいませんが、こんなに早く死ぬとは思っていなかったという衝撃を考えると、なんとなく理解できるような気がします。「どうせ死ぬなら、やりたかったことはなんでもやろう！」と、自暴自棄になっている部分もあるのでしょうか。死へのタイムリミットが言い渡される事の短所は、こういうところもあるので、もしかしたら知らない方がいいのかもしれ

ません。

ですが、自分の寿命を知る事の長所としては、「昔のまま生きていたら（やりたくても）やらなかったことをやる」というところではないでしょうか。この映画の中でも目標を定め、それを実行する強烈な意志の力が働いています。それは死ぬと悟ったから出てきた力であり、もしこれを常に意識する事が出来たら、どんなにたくさんのできるのでしょうか。今年の TV ドラマ『僕の生きる道』でも、SMAP のクサナギ君が演じる先生が「いつか読もうと思っていたけれど、読まなかった本」という話をしていました。机の中に、買ってずっと読まなかった本があったということを見つけたとき、彼にはその本を読む暇がなかったのではなく、読もうとしなかったことを悟ったのです。自分が読もうとしない限り、何年あってもそれは読まれない本なのでした。死ぬまでの期間が一年だろうが、十年だろうが、自分がやろうと思ったことはやらない限り「やりたかったけど…」という言い訳めいた言葉と共にしか発せられないのかもしれないかもしれません。ドラマの中でも、主人公は死を意識して生活することで、辛い事もありますが自分の生活をより豊かにしていきます。

くどいようですが、死ぬという事を意識した際、人は何でもできると思います。自暴自棄になってめっちゃくちゃになるのも「何でも」の一つだとは思いますが、それよりも何か目的を持って日々過ごす方がずっと有意義なのではないでしょうか。人には定命があり、寿命はあらかじめ決められているといえます。それが人の目から隠されているか、隠されていないか、ただそれだけの事に左右されてはいけないのかもしれないかもしれません。みんなが病気や老衰でゆっくり死ぬとは限らないのです。普段からその事を心し、死を考える事で、今をよりよく生きることができるとは思いませんか。もちろん、イスラームにおいては、死は終りではありません。ですが、この世の事も来世同様、常に真剣に考えなければならないのでしょうか。



少々暗い話になってしまったかもしれませんが、この話は「死を知るものの明るさ」とでも言うべきか、後も先も無いのにそれゆえ明るく余生を生きる二人の姿が描かれています。90分と、最近の映画としては短いものですが、その分凝縮されたものとなっています。中身の詰まったいい話…それこそ私などが目指すべき人生のカタチなのかもしれません。

『ノッキン・オン・ヘブンズドア』 1997年 ドイツ 90分

監督：トーマス・ヤーン

出演：ティル・シュヴァイガー（マーティン）／ヤン・ヨーゼフ・リーファース（ルディ）



3300年前、預言者イーサー（イエス）が生まれるはるか前、イラクの近くの有名なユーフラテスとチグリスの間に美しい谷間がありました。この時人々は怒りっぽく、下品でした。そして偶像を崇拝していました。預言者ヌーフ（ノア）はこれらの人々を改善し、導くために遣わされました。

ヌーフ 1450年生きつづけ、900年もの間、人々に説いたのです。人々が作った偶像に頭を下げるのではなく、唯一の神を崇拝するよう気付かせました。しかし、預言者ヌーフの話には耳をふさいで聞こうとはしないで、偶像崇拝を続けました。何人かは預言者ヌーフの話に耳を傾けました。彼らは偶像崇拝を止め、健康的な日常生活に戻ったのです。しかしその他の人々や預言者ヌーフの妻や息子でさえも拒否しました。これらの低俗な人々は預言者ヌーフや、預言者に従った人々に対して苦痛を与えて楽しむようになりました。預言者が道を通ればひどい言葉を投げかけるものもありました。また、石を投げたり、たたかれたりすることがありました。

ある日、たくましい息子と共にお金持ちの男が預言者の前に現れました。預言者を指してこう息子に言いました。「坊や、この男をよくみてごらん、彼はほうそつきだ。彼は私たちの尊敬する偶像を嫌い、私たちの崇拝行為である祖先崇拝を嫌っている。私が死んだ後もこの人を嫌い、苦痛を与えるように。」すると最後の言葉が終わるか終わらないかのうちに、息子が棒で預言者ヌーフを殴りはじめました。預言者は傷を負いたくさんの血を流しました。彼らの惨い行為が最大になった時、神は預言者にこれらの人々はいつかひどい洪水によって罰を受けるであろうと伝えました。預言者は大きな船をつくるよう命令され、大きな洪水が起こると同時に預言者に従った人々と共に船で乗り出すように命令されました。預言者は動物のオス、メス一組ずつ船に乗せるように命令されました。

洪水は激しいものだったのですべての土地は水の中に沈んでしまいました。すべては破壊され、預言者ヌーフの船とその船に乗っていた者だけが残りました。船は流れつづけ、最後にはジュディー（トルコにある）という山の上にとまりました。そして聖職として農業を管理しはじめました。預言者ヌーフは引き続き人間の改善と導きのために説きつづけました。預言者とともに船にのった息子が3人いました。サム、ハム、ヤフスです。サムはセム族の人種の始めとなり、ハムは黒人の人種の始めとなり、ヤフスはアリア（インド、ヨーロッパの言語族）の人種の始めとなりました。



この夏、私もようやくムスリム2年生。思えばすべてが初めての事ばかり。自分で決めたことながらあまりに大変そうで、一冊目の本を読んだ後、「これは海の水をすべて汲んできなさい」と、言われるのと同じくらい途方もなく大きな努力と時間が必要だと落ち込んだものです。しかし家族やまわりの人々の「できる事から少しずつ」と、いう言葉に私の気負いはなくなっていました。今回、一年を振り返る意味で、自分がムスリムになった経緯を書いてみようと思いました。

私は昔からとても頑固で、自分が本心から納得しないと何も行動できない性格でした。ただ、一度納得すると、わき目も振らず集中し時間を注いできました。そんな性格ですので、一度改めた宗教を再び改宗する事は、自分の血を総入れ替えするほど大変だろうと思っていました。ところが、仏教徒からキリスト教徒になった時の困難さとは比べものにならないくらい自然なかたちでムスリムになることができました。きっかけは単純、ムスリムの夫との結婚でした。ただ、結婚前に何度も宗教について話し合ったところ、「無理やりイスラム教徒にならなくてもいい。自分が信じているものを信じ、自然にそれが自分と同じものになれば嬉しいが。」という言葉に私はとても居心地がよく、「結婚前に必ずなれ！」と、言われるよりもイスラムという宗教を尊重することができました。ただ本当のところ「兄弟宗教といわれているし、私は一生クリスチャンかも。」と思っていました。

ところが、生活を共にするというのは不思議なものです。夫には食べてはいけない物があるわけで、夫が好まないものを自分だけ同じテーブルで食べるのはとても寒々しいことだと想像し、彼が食べないものは自分も食べない、家に置かないという簡単な答えが出ました。服装も同様です。新婚ホヤホヤで、夫が嫌いな格好をする人間がいるのでしょうか？以前ならデザインだけで選んでいた服も露出の少ないものを考えて買うようになりました。そんな生活が普通になり、私は満を持して夫の家族と3ヶ月過ごす機会を得たのです。

真夏のトルコは5分歩いただけでめまいがしそうな暑さでした。しかし、母や姉達は「今年は去年よりも暑いねえ。」と言いながらも、まったく肌を出すことなく淡々と汗を拭いているのです。礼拝（サラード）に関しても皆が入れ替わり立ち代りお茶の途中でいなくなったり、家事の合間に母の姿が消えたりと、社会環境の違いや生活の中に密接している姿を初めて自分の目で見ることとなりました。私が生活習慣だけでなく精神的にイスラームの教えを知りたいと思い始めたのは、「人間の生活に宗教が付随しているのではなく、生活は宗教の教えに基づいて存在しその他の事に派生しているのでは？」と、実家での生活を通して感じたからでした。このことは、私がクリスチャンとして教会に通っていた時から抱き続けていた疑問に対する解決の糸口でもあったのです。

毎週日曜日には必ず教会で礼拝ですが、その日は敬虔な気持ちで一同に祈りを捧げている人々も残りの6日間の行いはどうなのでしょう？私自身寝る前に祈りはするけれど、教会であの空間にいる時には

無心で祈る事ができるのに、家で一人だと集中力を欠いてしまうことがよくありました。それに反して、日本の家で一人ムスリムの戒律を守る夫や、単身で異国に来て自分達を律して生活している留学生の友人達、無秩序な母国で意志を強く持って挑んでいる日本の人々、そしてトルコの家族、知人。私が見てきたムスリムは、どんな場所、どんな状況で生活していても不変性を持って生きており、またすべての人の方向性が同一なのだと痛感しました。さまざまな性格、考え方を持つ人間をこのように一つにできる力、その真理を感じた時、それはアッラーの存在以外にはありえないのだと理解できました。

私は主人と出会う随分前、自らの意志で基督教の勉強を始め、長い時間をかけてクリスチャンになったことを間違いや無駄だったと思いません。「宗教を二度も変えて。」と、非難されたこともありますし、「そんな簡単に変えられるのは信念がないからだ。」と、いい加減な人間に思われることもあります。でも、自分の中ではっきりと答えが出ていることなので、あまり気になりません。今では、その素地がムスリムになるべく必要だったものなのではと思っています。頑固な私のためアッラーが用意してくださった道だったと感じています。



レシコーナー

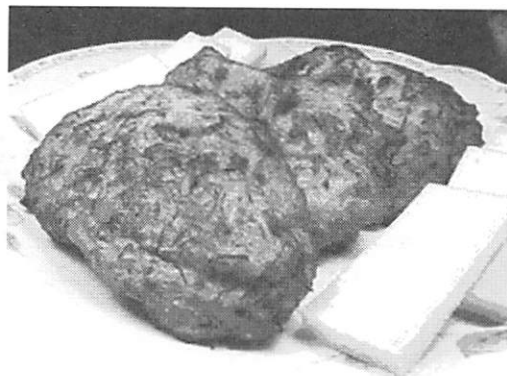
ムチュヴェル (ズッキーニの揚げ物)

材料

ズッキーニ 2個	玉ねぎ 1個
卵 2個	薄力粉 1/2カップ
塩 小さじ1	胡椒 小さじ1
ミント 大さじ2 (フレッシュ)	パセリ 大さじ2 (フレッシュ)
ディル 大さじ2 (フレッシュ)	揚げ油 適量

作り方

ズッキーニの皮を包丁でこすれながら撮ります。
玉ねぎとズッキーニを摩り下ろします。
ミント、パセリ、ディルをみじん切りにします。
全部の材料を混ぜます。
スプーンで一杯ずつすくって揚げ油に入れて
色がつくまで揚げて油を切って出来上がりです。





礼拝（サラート） 第6回

今回はズィクルとドゥアーの一部を紹介します。

1-義務の礼拝の後

سُبْحَانَ اللَّهِ

「スブハーナッラー(×33回)」

الْحَمْدُ لِلَّهِ

「アルハムドリッラー(×33回)」

اللَّهُ أَكْبَرُ

「アッラーフアクバル(×33回)」

لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ وَحْدَهُ لَا شَرِيكَ لَهُ ، لَهُ الْمُلْكُ وَلَهُ الْحَمْدُ وَهُوَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ .

「ラー イラーハ イッラッラーハ ワハダフ ラー シャリーカ ラフ、ラフルムルク ワ ラフルハムド、ワ フワ アラー クッリ シャイイン カディール」(×1回) [ムスリム]

2-ファジュールの礼拝の後

لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ وَحْدَهُ لَا شَرِيكَ لَهُ ، لَهُ الْمُلْكُ وَلَهُ الْحَمْدُ يُحْيِي وَيُمِيتُ وَهُوَ عَلَى كُلِّ شَيْءٍ قَدِيرٌ .

「ラー イラーハ イッラッラーフ ワハダフ ラー シャリーカ ラフ、ラフルムルク ワ ラフルハムド ユフイー ワ ユミート ワ フワ アラー クッリ シャイイン カディール」(×10回) [ティルミズィー]

3-礼拝の後

اللَّهُمَّ أَعِنِّي عَلَى ذِكْرِكَ وَشُكْرِكَ وَحَسَنِ عِبَادَتِكَ .

「アッラーフンマ アイニンニー アラー ズィクリカ ワ シュクリカ ワ フスニ イバーダテイカ」 [アブー ダーウード]



「フェトウフッラー・ギュレンとローマ教皇の会見」を読んで 第1回

Fethullah Gulen and His Meeting with The Pope 雑誌 the Fountain より

先日、本の整理をしていたら1998年の「The Fountain」という雑誌を見つけました。表紙に「預言者ムハンマドを語る」の筆者とローマ教皇の写真があったのでどんな話をしたのだろうと興味津々で読んでみました。具体的な話の内容は書かれていませんでしたが、なぜ対話をしたのかやその重要性などが書かれており、共感させられました。長い記事ですので全部というわけにはいきませんが抜粋して訳してみようと思います。以下訳文

宗教・文化間の対話

一国の人間だけではなく、世界中の人間が共有する考えや価値、経験は、人々を分裂し敵対させる要素よりも数が多く、より重要であるとギュレン氏は信じている。敵意を露にし、争いに発展する不一致を防ぐのと同時に、寛容を奨励し、相手を尊敬して統一を促進するには定期的な対話が必要不可欠だとも主張する。これまで彼は、対話と社会のあらゆる層の人々が互いに尊敬しあうことを促進するジャーナリストと記者の財団—the Foundation of Journalists and Writers 創設の先駆者となり彼が人生で出会ったほとんどの人から温かい歓迎を受けている。今日までギュレン氏はトルコだけでなく、世界中の重要人物を訪ねまた彼らの訪問を受け入れている。トルコのヴァチカン大使、トルコオーソドックス司教、トルコ-アルメニアコミュニティの長老、トルコユダヤコミュニティのラビ、影響力の大きいジャーナリスト、コラムニスト、TV、映画スター、多様な意見を持つ思想家、作家などが常に会見している人々のリストである。つづく…

ギュレン氏の言葉

「愛は存在する最も重要な要素である。それは放射される光のようであり、どんな力にも抵抗し乗り越えられる偉大な力である。愛を吸収する者の魂は高められ、永遠という旅への準備となる。愛を通して永遠と触れあえる魂は、永遠から得たものを他の魂へも植えつけるよう努力する。最後まであらゆる困難にもじっと耐えて、この聖なる任務に生涯を捧げる者は最後の息で「愛」と発し、審判の日に生き返るときも同じように「愛」と息するのである。」



禁断の食物に対するみ使いの裁決

み使いがある時言った。

アッラーは完全無欠であられる。同様にアッラーは、欠陥のないものに対してのみその恩恵をたれたもう。

彼はそのみ使いに命じられた言行を、一般ムスリムにも命じたもうわけである。

彼はクルアーンでも仰せられている。

汝ら信者たちよ、よい清いものを食べ、よい行いをせよ、われは汝らのなすことを熟知している。

信仰するものよ、われが汝らに与えた善いものを食べよ。

それからまたみ使いは言っている。

定めの礼拝をささげ、双手を天にさし上げて、おお、アッラーよ！おお、アッラーよ！と呼び得る、あらゆる確たる機会を持つかにみえる人が、彼の食物、飲物、衣服などにおいて禁断の要素があるために、アッラーはかれを一向にお受け入れなく、また彼の祈りにも応じたまわぬ。

人々はムスリムの祈りが、なぜアッラーから常に応じられないことがあるかを怪しむ。けだしその理由は以上の次第できわめて容易に理解できよう。アッラーはまれに不信者（罪深いムスリムを含まない）の祈りさえ許したもう。真実な人の祈りが拒否されるのは特別のまれな場合である。

すなわち多くの者が、こんな人々に彼らの祈りを祈ってもらうよう依頼する理由である。アッラーに彼らの祈りが聞き届けられることを望む者は、禁断を厳守しなければならぬことが理解できよう。その祈りを拒絶されるような危険をあえて侵すような者がどこにあらう。

国内： 1ヶ月 250円、 6ヶ月 1300円、 1年 2500円

国外： 1ヶ月 300円、 6ヶ月 1600円、 1年 3000円

郵便振替口座番号： 00140-4-574489 口座名義： Yasuragi

皆様のご意見、ご感想、ご質問をこちらのコーナーまで心よりお待ちしております

<http://www.yasuragiweb.com>

yasuragi_nihon@hotmail.com

「やすらぎ」編集部

〒168-0074 東京都杉並区上高井戸 3-10-6, 404